



さあ、答え合わせをしよう！

第54週目 行ってみよう～茨城県（いばらきけん）からの出題

※ココを見てね！▶行ってみよう～茨城県（いばらきけん）

1. 霞ヶ浦（かすみがうら）の沿岸地域（えんがんちいき）に多い、縄文時代後半から終わりごろの貝塚（かいづか）からわかるのは、次のうち何？

正解：②塩づくり

問題には、「縄文時代後半から終わりごろの貝塚～」とありますね。米づくりが広まったのは弥生時代（やよいじだい）、埴輪（はにわ）の登場（とうじょう）は古墳時代（こふんじだい）の話なので、どちらもちがいますね。正解は、②塩づくり。全国で、塩づくりの盛（さか）んな地域（ちいき）といえば、圧倒的（あつとうてき）に瀬戸内（せとうち）ですが、大昔から全国の海の沿岸地域（えんがんちいき）で作られていました。塩は、食品が腐（くさ）るのを防ぐほか、味がつくため料理がおいしくなります。塩は物々交換（こうかん）でも人気だったことでしょうね。

2. 九州地方（きゅうしゅうちほう）のものとよく似（に）た壁画（へきが）が見つかった古墳（こふん）の名前は？

正解：②虎塚古墳（とらづかこふん）

茨城県（いばらきけん）の中央、太平洋に面したひたちなか市にある全長56.5mの前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）、その石室（せきしつ）の壁（かべ）には赤い顔料（がんりょう）で、円形や三角形、靱（ゆき）や盾（たて）・大刀（たち）といった武器（ぶき）・武具（ぶぐ）の絵が描かれていました。こうした古墳（こふん）は「装飾古墳（そうしょくこふん）」と呼ばれ、九州地方に数多くみられることから、遠（とお）く離（はな）れた九州地方との強い結びつきがうかがえます。①と③は、ひっかけの答え。正解は、②虎塚古墳（とらづかこふん）でした。

3. 三昧塚古墳の前方後円墳からは、とても珍しいお宝が見つかりました。それは何かな？

正解：①金銅製馬形付透彫冠（こんどうせいいうまがたかざりつきすかしぼりかんむり）

「お宝ベスト5」の1つ目を見ればわかるね。写真ではサビているように見えるかもしれないけど、当時（とうじ）は黄金色（おうごんいろ）に光り輝（かがや）いていたと考えられるすばらしいお宝です。正解は、①金銅製馬形付透彫冠（こんどうせいいうまがたかざりつきすかしぼりかんむり）です。どんな人が被（かぶ）っていたのかな？

4. 小組遺跡（こぐみいせき）から出土した石槍（いしやり）は、何でできている？

正解：②水晶（すいしょう）

「石槍（いしやり）」とは打製石器（だせいせっき）の一種で、石で作った槍（やり）の頭の部分をさします。「お宝ベスト5」の5つ目を見てください。正解は、②水晶（すいしょう）。一般的（いっぱんてき）に、石槍（いしやり）に使われるのは黒曜石（こくようせき）が多く、水晶（すいしょう）が使われることは珍（めづら）しいようです。小組遺跡（こぐみいせき）のようにまとまって見つかった遺跡（いせき）は他に例（れい）がなく貴重（きちょう）です。

5. 一本松遺跡からみつかった青銅製（せいどうせい）の飾り は、どんな形をしていましたか？

正解：③巴形（ともえがた）

「お宝ベスト5」の2つ目、手裏剣（しゅりけん）のような写真が紹介（しょうかい）されています。この形の名前が問題ですが、わかりますか？ 正解は、③巴形（ともえがた）。弥生時代（やよいじだい）から古墳時代（こふんじだい）にかけて西日本で多く出土（しゅつど）しますが、茨城県（いばらきけん）では、2例しかありません。何に使われたのかはわかりませんが、盾（たて）などにつけて飾（かざ）る、魔よけではないかと考えられています。